

# ひとりごと

## 「夏休みinハワイ」

社会人になって初めての夏休みを迎えた。3連休に休みを繋げて1週間の休暇をとり、飛行機に乗り、日本人御用達のリゾート地・ハワイに初めて降り立った。

仕事の翌日から飛び立ち、帰国した翌朝すぐに出勤するハードスケジュールの中、現地ではリゾート気分でゆっくりしようと決めて向かったのだが、異国の地に降り立った私にのんびり気分は無くなっていった。山に登り、海でウミガメと泳ぎ、中心地を離れた人気店までわざわざ足を延ばして美味しいものを食べ、ハワイアンカルチャーの体験をし、星を見て、日の出を見て、すばる望遠鏡を眺め、本省での仕事さながら忙しい日々を過ごしてしまった。

現地の物価は、激しいインフレに加え1ドル150円近くに迫る円安により日本の2倍から4倍ほどとなっていた。おかげで節約根性が発動し徒歩や本数の少ない安いバスに頼ったせいで、余計に疲れた日々を過ごすことになった（旅行好きの自分にとってはそんな日々もまた楽しかったのだが）。

ハワイ（米国）では、値札上の物価が高いだけではなく、さまざまところでチップが（暗に）求められる（最低賃金もチップ労働者は別で定められている）。15%ほどが標準とされており、キャッシュレス時代にあっても、クレジットカードを差し込む機械に支払いの際にチップの選択画面が現れる徹底ぶりだ。しかもほとんどの機械では選択肢の下限が「20%」であり、それより低いチップ、あるいはノーチップを選択するには、少し違う位置にあるボタンを押さなければならない仕組みとなっている。現地の人も店員の前でそのボタンを押すのははばかれるようで、チップの高騰が不満を招き、廃止論もささやかれているらしい（ちなみに、米国のチップ文化の背景にあるのは黒人差別の歴史ということだ）。チップのおかげかハワイのサービスは大変良いものが多かったが、チップを廃止するとなると、「お金がもらえないのであればよいサービスをしようとは思わない」ことにもなりかねないように感じる（いわゆるアンダーマイニング効果?）。そう思うと、チップが無いにもかかわらずサービスの良い日本は良いなあと感じつつも、良いサービスにはチップで感謝する、という文化も素晴らしいと思う。

他にも観光を楽しむ中でハワイの社会システムや文化などに触れて感じるのが色々あった。旅行は、楽しむものでありつつ、刺激や学びにあふれた時間でもある。。と、こじつけで真面目なまとめ方をしたが、ただのひとりごとである。

(K.K)

「教育委員会月報 令和5年11月号 No.889」

- ・発行・著作 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
- ・〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2
- ・TEL : 03-5253-4111 (代表)
- ・URL : <https://www.mext.go.jp>



文部科学省